

行政視察報告

令和6年7月8～9日に3つの常任委員会（総務、文教福祉、都市経済）が行いました行政視察の概要を掲載します。各委員会の報告の詳細は、二次元コードからご覧ください。

全体視察

7月8日に愛知県春日井市の高蔵寺ニュータウンの再生事業を視察しました。高蔵寺ニュータウンは、1968年に入居が始まった日本で2番目に古い大規模団地(702ha)です。入居開始から半世紀が過ぎ、若年層の流出による人口減少や少子高齢化による課題に対し、春日井市が持続可能なまちづくりを目指すため策定した「高蔵寺リ・ニュータウン計画」について伺いました。また、同ニュータウン内の小学校跡地をリニューアルした多世代交流拠点施設「グルッポふじとう」を見学しました。当市において、今後検討される学校の跡地活用の参考となる事例でした。



▲高蔵寺まなびと交流センター「グルッポふじとう」

総務委員会



7月9日に愛知県一宮市の尾張一宮駅前「iビル(アイビル)」を視察しました。2012年にオープンした同施設は交通結節点としての利便性を生かして、中央図書館、中央子育てセンター、市民活動支援センターなどの多様な機能を有しています。一宮市のiビルを中心とした市街地活性化の取組は、当市の駅周辺の整備を検討する上で参考となる事例でした。



▲尾張一宮駅前「iビル(アイビル)」内の貸出ホール

文教福祉委員会



7月9日に愛知県北名古屋市のコミュニティ・スクールの取組を伺いました。北名古屋市で2012年から導入されたコミュニティ・スクールは、学校と地域が一体となって子どもたちの豊かな成長を支える「地域とともにある学校づくり」を目指すものです。当市では今年度からモデル校でコミュニティ・スクール導入に向けた検討が進んでおり、今回伺った課題とその対応は当市でも参考となる事例でした。



▲犬山市の農福連携会社「ココトモファーム」にも訪問

都市経済委員会



7月9日に静岡県焼津市の「ターントクルこども館」を視察しました。2021年にオープンした同施設は、こども図書館とおもちゃ美術館を備えた複合施設であり、子どもを中心として保護者や幅広い世代の人々、子育て支援団体などが交流できる子育て支援拠点です。当市での子育て施策を検討する上で参考となる事例でした。



▲焼津市「ターントクルこども館」内のおもちゃ美術館